

# 信仰復活

シリーズ～預言者の声～

2022/10/23

# ダニエルについて

## • 最初のバビロン捕囚

- ヨヤキム王の治世3年目（BC605年）にバビロンの王ネブカドネツアルがエルサレムを包囲し、神殿の祭具を奪った（1:1-2）

## • 捕囚民であったダニエル

- 「イスラエル人の王族と貴族の中から、体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。…この少年たちの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤの四人がいた。」（1:3-4,6）

# 優れた青年たち

- **バビロン名を付けられる**

- 「侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ。」1:7

- **宮廷の肉類と酒を拒む**

- 異教の神々に献げられた食べ物を拒み、野菜と水だけを摂ったが「彼らの顔色と健康は宮廷の食べ物を受けているどの少年よりも良かった」1:15
- 「彼らは常に国中のどの占い師、祈禱師よりも十倍も優れていた。」1:20

# 青年たちの危機

- 巨大な金の像を造り、これを拝むよう強要したネブカドネツアル
  - 「金の像の前にひれ伏して拝め。ひれ伏して拝まない者は、直ちに燃え盛る炉に投げ込まれる。」
- 金の像を拝まなかった青年たち
  - 「ユダヤ人シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人がおりますが、この人々は御命令を無視して、王様の神に仕えず、お建てになった金の像を拝もうとしません。」3:12
- 燃える炉に投げ込まれる3人
  - 「お前たちをわたしの手から救い出す神があるか。」3:15

# 燃える炉から助け出される青年

- 青年たちの答え

- 「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。」

3:16

- 害を受けなかった青年たち

- 王は言った。「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」3:25



# ダニエルの活躍

- 夢の解き明かしを求めたネブカドネツアル
  - 解き明かしだけでなく、夢そのものも言い当てろ、と言った
  - 賢者たちがそれは無理だというと、バビロン中の知者を皆殺しにするよう命じた
- 主に祈るダニエルたち
  - 「ダニエルは家に帰り、仲間のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明した。そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った。すると、夜の幻によってその秘密がダニエルに明かされた。」2:17-19

# ダニエルの危機

メディアがバビロンにを倒して支配者となった

- 王に重んじられていたダニエル
  - 「ダニエルには優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出していた。」6:4
- ダニエルを妬み陥れようとした大臣たち
  - 「ダニエルを陥れるには、その信じている神の法に関してなんらかの言いがかりをつけるほかはあるまい」6:6
- 王に勅令を出させる
  - 「向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。」6:8

# 獅子の洞窟

- エルサレムに向かって祈っていたダニエル
  - 「ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおりに二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、**日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。**」6:11
- ダニエルを心配する王
  - 「それで王は命令を下し、ダニエルは獅子の洞窟に投げ込まれることになって引き出された。王は彼に言った。『**お前がいつも拝んでいる神がお前を救ってくださるように。**』」6:17

# 主なる神を信じた王

- 無傷だったダニエル

- 「神様が天使を送って獅子の口を閉ざしてくださいましたので、わたしはなんの危害も受けませんでした。」6:23

- 新たな王の勅令

- 「わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいまし／その主権は滅びることなく、その支配は永遠。この神は救い主、助け主。天にも地にも、不思議な御業を行い／ダニエルを獅子の力から救われた。」6:27-28



# これらの出来事が意味すること

- 信仰の戦いに直面した青年たち
  - ダニエルらは捕囚地で異教崇拝と戦わねばならなかった(優秀であったが故に妬まれた)
- 信仰を貫いた青年たち
  - 異教の神々に献げた食物を避け、金の像を拝むことを拒み、王を拝まなかった
- 捕囚がもたらした悔い改め
  - 異教崇拝が原因で国を追われることになった彼らが、命がけで十戒の第一戒を守ったのは、自らの罪への反省と、国の再考を願う強い思いの表れである(9章)

## そうでなくても

このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。わたしたちのお仕えする神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拝むことも、決していたしません。

3:16-18